

モンゴル・ホルド

科学研究費・基盤研究(B)(19H04239)「乾燥地における土地劣化計測システムとモニタリング手法の開発」に関して、同システムの設置のためにモンゴルに渡航した。渡航期間は2023年2月27日から3月8日である。今回同行していただいた相手国研究者は、地理学地生態学研究所の Ulgiichimeg Ganzorig 氏、日本からの同行者は劉佳啓・特命助教、および千葉工業大学の松島大・教授である。

2/27	鳥取から羽田空港、成田空港からウランバートルへ移動
2/28	今回、相手国の研究機関である地理学地生態学研究所を訪問し、Dashtseren 所長、Batkhishig 教授に挨拶を行う。日本から航空輸送した機材を同研究所で受け取り、ウランバートル市内で設置のための資材（鉄管、ソーラーパネル等）を購入。
3/1	前日に引き続き、ウランバートル市内で資材を購入後、午後設置場所に向けて移動する。この日は中継地点のマンダルゴビに宿泊。
3/2	設置場所であるホルドに移動し、土地を管理するサラントヤ氏の指示のもと、研究分担者の松島大教授と研究協力者の劉佳啓特命助教とともに設置（土地劣化計測システム）を始める。サラントヤ氏とは、土地やシステムの管理のための契約（半年間）を行う。
3/3	前日に引き続き、設置を行う。午後遅くに設置が完了し、システムの運転状況を確認する。
3/4	午前中は前日に引き続き、システムの運転状況を確認し、午後から研究分担者である松島大教授の観測サイトの1つ（バローンバヤンウラン）に向かう。この日は、中継地点のアルバイヘルに宿泊。
3/5	バローンバヤンウランにてすでに設置済みのシステムからデータを回収。その後、松島大教授の観測サイトの1つ（バーツァガン）に向かう。この日は、中継地点のバヤンホンゴルに宿泊。
3/6	バーツァガンにてすでに設置済みのシステムからデータを回収。その後、ウランバートルに向けて移動。この日は、中継地点のアルバイヘルに宿泊。
3/7	夜8時頃にウランバートルに帰着。ウランバートル市内に宿泊。
3/8	ウランバートルから成田空港、羽田空港を経て、鳥取に帰着。



左から一人目はカウンターパートの Ganzorig さん、2 人目は劉さん、3 人目は設置機材の管理を行うサラントヤさん。右端は松島さん。筆者：左から 4 人目



ホルド(Khuld)に設置した観測機材。
45°13'32.41"N、105°33'10.79"E